

オープン カレッジ

次世代エネルギーとして水素の活用が期待されています。燃焼時の二酸化炭素排出がなく環境負荷が低いことから、国内外で水素の導入やサプライチェーン整備に向けた取り組みが着々と進んでいます。2030年や50年の将来目標を水素の生産や貿易について設定する国も増えています。ただ現状では、水素の輸送には課題があり、生産された水素の多くは近接する地域での利用にとどまっています。そのため国境を越える水素の取引は限定的と考えられますが、ここでは世界の水素貿易の近況について概観してみます。

世界の水素貿易



(U.N. COMTRADE) のデータによると、水素の世界輸出額はコロナ禍前の19年に1・7億ドルでしたが、20年に1・3億ドルに落ち込みました。経済活動再開に伴う需要増加により、21年には2億ドルほどに回復し、22年には3・5億ドルへと急増しました。この急増の背景には、22年2月のロシアによるウクライナに輸出する水素の輸出額が22年に24・4兆ドルでしたので、水素貿易はわずかに0・001%程度であることもわかります。現状では世界貿易に占める割合が非常に小さな水素貿易ですが、年々その割合は増加傾向を示しています。これは、水素貿易の成長スピードが世界貿易を上回っていることを意味します。黎明(れいめい)期にある水素貿易ですが、専用運搬船による海上輸送など輸送分野の技術進歩に伴い、今後も成長が継続すると見込まれています。

黎明期からの

成長期待

水素の世界全体での輸出額(億ドル)を00年から23年について図に示しています。この国連商品貿易統計



名古屋市立大学大学院
経済学研究科教授
板倉 健

ライナ侵攻の影響があります。同年のベルギーからの水素輸出額は2・7倍に増加し、オランダの輸出額も1・7倍となりました。両国はカナダとともに水素輸出の3大国で、世界輸出の8割を3カ国が占めています。直近の23年では水素輸出額が2億ドルを超える水準となっています。ベルギー産水素の9割以上は国境を接するオランダ

いたくら・けん 国際経済。
パデュー大学PhD。1969年生まれ。